

大崎市は、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設整備の状況、その他の条件を総合的に勘案し、地域密着型サービスの基盤整備の基本単位となる日常生活圏域を設定しています。

日常生活圏域の状況としては、人口が最も多いのが古川中央地区で、次いで古川東部地区、古川南部地区の順になっており、高齢者人口においても、古川中央地区が最も多く、次いで岩出山地区、古川東部地区の順になっています。また、高齢化率においては、鳴子温泉地区の39.4%が最も高く、次いで岩出山地区の34.7%、古川西部地区の31.9%の順となっており、最も低いのは古川南部地区の15.6%で、次いで古川東部地区の18.7%、古川中央地区の20.2%であり、この3つの圏域が市の高齢化率(25.6%)を下回っています。

【日常生活圏域の状況】

(単位:人)

圏域名	人口	高齢者人口	高齢化率	要介護認定者等数	認定率
①古川中央地区	23,351	4,721	20.2%	809	17.1%
②古川東部地区	21,587	4,033	18.7%	704	17.5%
③古川西部地区	7,747	2,472	31.9%	504	20.4%
④古川北部地区	10,062	2,811	27.9%	652	23.2%
⑤古川南部地区	14,628	2,275	15.6%	348	15.3%
⑥松山地区	6,485	1,926	29.7%	378	19.6%
⑦三本木地区	8,247	2,138	25.9%	385	18.0%
⑧鹿島台地区	12,395	3,742	30.2%	712	19.0%
⑨岩出山地区	11,959	4,152	34.7%	941	22.7%
⑩鳴子温泉地区	6,995	2,758	39.4%	628	22.8%
⑪田尻地区	11,816	3,583	30.3%	759	21.2%
計	135,272	34,611	25.6%	6,820	19.7%

資料:人口は住民基本台帳(平成26年4月1日)要介護者等認定者数は高齢者実態把握(平成26年4月1日)



●落慶法要の様子

岩出山・山谷薬師堂再建

180年前からの山形県最上町とのご縁!

東日本大震災で損壊した大崎市岩出山上野目の山谷薬師堂が再建され、約4年3か月ぶりに元の姿を取り戻しました。この薬師如来像は目の病気に効くとして、住民の信仰のよりどころでした。振興会長佐藤茂樹氏は、当初、赤い羽根共同募金の助成を受けましたが、再建費用工面に苦慮していました。

安置している十二神将像の台座裏に「天保6(1835)年、菅雲龍」と記され、菅雲龍は江戸後期から明治初期に最上町に実在した彫刻家 三代目 出羽の勘七とわかりました。

このご縁をたよりに振興会役員の方々は、大崎市古川の老人介護施設「庭の里」を運営する最上町在住の大場利秋理事長より、五代目 出羽の勘七をご紹介いただき、再建に動きまわりました。これに共鳴した大場氏より最上の材木提供の申し出を受け、薬師堂は再建されました。

話題を追って 人口減少と地方創生に向かって

大崎市議会では、人口減少問題対策調査特別委員会を設置し、少子化対策と若者定住を促進するなど、持続可能な地域社会のあり方を調査しています。この委員会では国のまち・ひと・しごと創生総合戦略を参考に、しごとがひとを呼び、ひとがしごとを呼び込む好循環を確立するため、また、まちに活力を取り戻すためにはどうすればよいのかを議論しており、今後策定される本市総合戦略策定に対して積極的な政策提案を行っていきます。

「しごと」と「ひと」の好循環を実現するため、4つの目標ごとに議会(特別委員会)では議論しています。

1 「しごと」が「ひと」を呼び

- 農林業の衰退に歯止めをかけ、持続可能な農業生産へアプローチ
- 企業の生産性向上のための政策と支援
- 商業と観光業の繁栄のための政策と支援

- 移住・定住希望者への支援体制の整備
- 都市農村交流の促進

地方に仕事をつくり安心して働けるようにする

地方への新しいひとの流れをつくる

2 「ひと」が「しごと」を呼び込む

支える動き

支える動き

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

- 若者世代の経済的安定支援策
- 結婚、妊娠、出産、子育て支援と教育環境の整備

- 小さな拠点(多世代交流・多機能型拠点)の形成
- 生涯現役で活躍する健康長寿社会の形成

3 「まち」に活力を取り戻す

魅力あふれる地方・おおさきを創生



●渋谷内閣審議官へ



●農水省佐藤大臣政務官へ

TPP5原則遵守を要請



●小里環境副大臣へ指定廃棄物最終処分場建設の見直し要請



●(株)ロイズ山崎社長にJAいわでやま組合長を仲介



●待機児童ゼロを目指し無認可保育施設の支援活動



●グループホーム「ふかふか・はうす」(鳴子)職員研修会に参加

ごあいさつ

猛暑に見舞われる日本列島、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。さとう仁一の議員活動に、いつも変わらぬご支援を賜り心より感謝申し上げます。

国会では、猛暑とともに安保関連法案をめぐる、国民の声を把握することなく世論とは違う方向での議論がなされております。これに、さとう仁一議員は地方議会から市民(国民)の声を伝えるべく同志議員とともに勇気ある行動を起こしております。地方議会も国会も国の将来に亘る平和を希求し、人類の幸福に向けて真摯な努力を期待するものです。

残暑厳しい折、皆様のご健康、ご多幸をご祈念いたします。

さとう仁一連合後援会会長  
遠澤 啓子  
大崎市議会議員  
佐藤 仁一